

第05講 まずは、「副詞」を「排除」すべし

「形容詞」を理解し、「副詞」が解れば、「品詞」の理解はおおよそ終わったも同然と言っても過言ではないでしょう（あとは、どんどんみえてきます）

「副詞」は、はじめのうちは暗記することが多く大変に思えますが、覚えてしまえば「英文読解」が非常に楽になりますので、しっかり認識・理解・暗記してくださいそして、《「副詞」は、『文。』の「構造把握」のために「排除」する》が合言葉です

本講では、「副詞」の正体について、詳しく見ていきます（正体を知り排除するのです）今まで見てきた「名詞」「自動詞」「他動詞」「形容詞」は、「文役・構成要素」でしたが、「副詞」は「構成要素」ではありません（「構成要素」外の邪魔者なのです）ですから、「構造把握」のために、「副詞」（敵）を知り「ハブ」くのです

また、『文。』全体の意味の観点からは、実態的には、《「副詞」は、『文。』の「場面状況」を設定している》ということを認識・理解してください（「舞台背景」の設定）

「役外状況族」

「副詞」は、「文役・構成要素」ではなく、外から『文。』の場面状況を設定している」という意味で、「役外状況族」と本書では呼びます（舞台の背景といえます）本来、「副詞」というわかりにくい命名よりは、「状況詞」とでもいふべきものです

まずは、「副詞」という名前がわかりにくいですね

「副える」ということですが、何に副えるのでしょうか

まずは、「形容詞」「動詞」『文。』にそえているということを認識してください

実態は、主語自体の「状態」は「形容詞」、主語の外部環境の「状況」は「副詞」と理解してください（「形容詞」は「衣装・アクセサリー」、「副詞」は「舞台背景」ですね）従いまして、「形容詞」は「状態詞」、「副詞」は「状況詞」なのです

まずは、「副詞」の「役割」と「きまり」を具体的にみていきます

「副詞三原則」

「副詞三原則」というものがあり、まずは、これを覚えなければなりません

原則Ⅰ <<「副詞」の「性質」>>

原則Ⅱ <<「副詞」の「意味内容」>>

原則Ⅲ <<「副詞」の「修飾先」>>

「完全暗記」だ！ ガンバロウ！！

原則 I

「副詞」の「性質」

- 1、「文役」「構成要素」「主自補他目」にはなれない
- 2、『文。』のどこにでも置かれる（文頭・文中・文末）
 - 3、意味の強い「副詞」が文頭にくると、「倒置」が起きやすい

3は、本講の段階では、重要性が低いので、触れません
本講では、「2、」について見ていきます

He met that girl .

「時をあらわす副詞」の「yesterday」は、この英文の、どこにでも置けます

(① 頭,) He (, ②文中・挿入,) met (, ③,) that (, ④,) girl (, ⑤文末).

①の「文頭」（カンマを後ろにつけることが多い）、⑤の「文末」（カンマを前につけることがある）は当然のことながら、②の「文中」（「挿入」といい、前後にカンマを置くことが多い）も可能ではありますが、④は、「that girl」という「名句」の「まとめり」の中に「挿入」するのは意味が不明瞭となり、「句」や『文。』を完全に分断してしまうので、通常はありえないでしょう

③は、「他動詞」と「目的語」の間であり、④ほどの緊密性はないので、可能ではありますが、かなり修辭的表現を狙ったものとなるでしょう

ここでは、「カンマ（コンマ）」というものに注目しておいてください

「カンマ」は、『文。』の「構造」をわかりやすくしてくれているものなので
多くは、「副詞」との絡みで使われます（「同格（第07講参照）」でも使われます）
すなわち、「副詞」があることを明示してくれているのです

「挿入」で「カンマ」がないとわかりにくいときがあるので、「カンマ」で「副詞挿入」を明示してくれているのです

特に、「挿入」の場合、両端に「カンマ」があることに注意してください

「カンマ」から「カンマ」は「()」で括って、「副詞挿入」として「排除」して、「構造把握」をしてください

He met (, yesterday,) that girl .

「挿入」の「副詞」の「yesterday」は「()」で括り、「排除」しましょう

原則Ⅱ

「副詞」の「意味内容」

「副詞」の「意味内容」としては、

①「時」②「場所」③「程度」④「頻度」⑤「目的」⑥「手段」⑦「理由」⑧「条件」⑨「譲歩」⑩「否定」⑪「付帯状況」⑫「結果」⑬「その他」
など、様々あります

①～⑫は「完全暗記」するのが得策です

覚えるのは、はじめのうちは大変ですが、日常生活で意識したり、英文を注意して見ていけば、すぐに慣れます

では、「疑問副詞」を利用した、次の表を参考にして、「副詞」のイメージをつくりあげてください

簡略な意味	疑問副詞	日本語での意味内容	英語の語句節例
①時 (いつ)	w h e n	～のとき	today tomorrow
②場所 (どこで)	w h e r e	～のところで	here there
③程度 (どのくらい)	h o w	どのくらい	hard
④頻度 (どのくらい)	h o w ~	どのくらい	often sometimes
⑤目的 (なんのために)		～のために	不定詞句、so that 節
⑥手段 (どうやって)	h o w	～で	by 語句、with 語句
⑦理由 (なぜ)	w h y	なぜなら	because 節
⑧条件 (もし～なら)		(もし)～なら	if 節
⑨譲歩 (～だけれども)		～だけれども	though 節

⑩「否定」の「not」も「副詞」です

以下の「否定の副詞」も覚えてください(「not」と同時に使うことはありません)

⑩否定4単語

h a r d l y	ほとんど～ない
s c a r c e l y	
r a r e l y	めったに～ない
s e l d o m	

「no longer (もはや～ない)」等は、「群否定副詞」と考えてください

⑪「付帯状況」は、本講では扱いません(別巻でとりあげる予定です)

⑫「結果」は「不定詞」の講で説明します(第11講参照)

原則Ⅲ

「副詞」の「修飾先」

「形容詞」は「名詞」を「修飾・説明」するのに対して、

「副詞」は、①「動詞」、②「形容詞」、③「副詞」、④「『文。』全体」を「修飾」します

① He runs fast. (速く走る)

自 ← 副

② He is very fast. (とても速い)

副 → 形補

③ He runs very fast. (とても速く)

副 → 副

④ Truly, he runs fast. (本当に、)

副 → 『文。』

「副詞」は、構造上は、「動詞」「形節詞」「副詞」「『文。』全体」に吸収され・消滅する「文役外」「役外族」なのがわかりますよね
「役外状況族」という命名が実感できますでしょうか

ちなみに、

本書では、「間投詞」は、感情をあらわす、独立的な「副詞」と考えます
「oh」「thanks」など

「副詞」は「動・形・副・『文。』」に「副える」というところからの命名でしょうが、いまひとつわかりにくいですね

分析的視点からは、「形容詞」は「中心名詞」やその他の「名詞」の状態を示す「状態詞」と命名されるべきで、「副詞」は「中心名詞」やその他の「名詞」の外の状況を示したり、「動作（動詞）」の状況や「形容詞」の状況を示す「状況詞」と命名されるものであるべきことを実感できたでしょうか

ここまでは、「単語」で、「品詞」（主に「名詞」「形容詞」「副詞）、「文役」「構成要素」（「主役」「目的役」「補役）を考えてきましたが、これからは、「意味のある大きなまとまり」すなわち「句」と「節」で、より大きな「名詞」・より大きな「形容詞」・より大きな「副詞」を見ていきます（中型や大型の「名形副」）

次講で、「句」からはじめましょう